

原発がこわい女たちの会  
<http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/>

《 2013年03月 | トップ | 2013年05月 》

検索

2013年04月23日(火)

 検索

原発事故と動物たち

アーカイブ

以前みた1枚の写真がずっと気になっていた。  
 背骨の浮き出た乳牛たちが、牛舎でへたり込んでいる。すでに死んでいたのかも知れない。胸を衝かれた。福島原発事故が起きたため飼い主が避難してしまったのである。牛たちは見捨てられ、渇き飢えて悶え死ぬよりほかになく・・・阿鼻叫喚の地獄絵だったろう。むろん飼い主を責めることなど微塵も出来ない。いや、帰宅がままならず放置するしかなかった飼い主さんこそ慟哭の極みだろう。

たしかに家畜は人間のために、搾乳され食用になり皮革になる、そのために飼育され屠殺される。とはいえこんな死に方があってよいはずはない。数年前の宮崎県で起きた口蹄疫被害も悲劇だったが、今回は原発事故という人災に由来するだけに憤懣やるかたない。

牛や豚たち家畜に限らない、犬猫のペットとなるとさらに身近で切実だ。4月9日(16日再放送)、NHKテレビ番組をご覧になったかたもあろう。21頭の犬たちが福島県飯館村へ一時里帰りをした。NPOが預かる岐阜から2日かけて、もとの飼い主家族と2年ぶりの再会。ご主人に飛びついて顔をなめまわすワンちゃんもいれば、どなたでしたっけ？と痴呆気味のものもいる。高線量で荒れ果てた住宅と犬小屋に戸惑ったり、かつての散歩コースを辿って落ちついたり。だがどの犬もふるさとに滞在できるのはたったの3時間。さいごに「ハウス！」と車のゲージを示されて、従順に戻っていく彼らと、愛犬の後姿をじっとみつめる家族たち。

せつなく、涙なしにはとても見られない、衝撃の写真であり映像であった。もっとマシな対処はないのか、ペットと住める住宅はないのか、家畜は野に放つほうがよかったのでは、せめて安楽死をもっと早期に、といった方法は浮かんでくるが、いずれも対応処置の域。もちろん行政の初動態勢の遅れは問題であるし、救出・保護活動のための経済的支援やボランティアも重要な役割をもつが。いっぽう、動物たちどころではない、人の命が先、生活の安定安心が先、というのが被災者やご遺族の気持ちかもしれない、人間優先はそのとおりかも。

それでも！ 誤解をおそれず、情緒的に言い切ってしまうと、動物たちの姿に目を留めた多くの人が、居たたまれなさを感ずるはず。せつなくなるだけではなく、気持ちが重たく滅入るのだ。家畜の牛や豚、ペットの犬や猫たちに、何万頭か数も知れない家畜やペットたちに、その他多くの動物たちに、私たち人間はひどいことをしてしまった、私たちの愚かさのために取り返しのつかない犠牲を強いてしまった。事故を起こした電力会社や原発政策を推進してきた政府の責任を追求することだけでは済まない、物言わぬ動物たちに対する人間としての後ろめたさ、それが気分を重くしてしまう。

こう考えてくると、私たちの倫理がとわれるのは、動物だけでなくやっぱり人間に対しても同じだ。それは、この先ずっと放射線の影響に晒され続ける子ども世代、高レベル放射性廃棄物のツケを押しつける未来の子ども世代に対する倫理だ。

あらためて、原発事故の悲惨さと、原発を54基も作ってしまった私たち人間の・大人の過ちをおもう。

※ おすすめの本

太田康介『のこされた動物たち』飛鳥新社、2011年7月  
 “ 『待ちつづける動物たち』 ” 、2012年3月  
 福島第一原発20キロ圏内の動物の記録写真集。  
 著者は、震災直後からボランティアで保護活動に奔走しているカメラマンです。

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(1)
- 2014年02月(3)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

(sora)

2012年09月(2)  
 2012年08月(2)  
 2012年07月(4)  
 2012年06月(4)  
 2012年05月(3)  
 2012年04月(1)  
 2012年03月(1)

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民  
 守 正義(08/21)  
 そもそも、我が和歌 by 清  
 水俊幸(07/25)  
 コメントありがとう by sora  
 (12/05)  
 突然すみません。東京 by  
 里美(11/22)  
 10/26と11/29のチケット by 角  
 谷(10/23)  
 starさんコメントあり by sora  
 (09/14)  
 このブログを読むまで by  
 star(09/13)  
 こんにちは。メッセ by わん  
 こ(04/15)  
 現在稼働している大飯 by  
 star(04/09)  
 廃炉産業を起こしてほ by  
 kaziharayosiyuki(03/14)

2013-04-23 | 記事へ | コメント(0)

2013年04月02日(火)

結成26年のつどい開催

「原発がこわい女たちの会」が結成されたのは、1987年3月29日、チェルノブイリ原発事故から1年が経とうとしているときでした。88～92年には和歌山県の原発建設計画に終止符がうたれましたが、それで運動が終われるようなものでもありませんでした。原発とは、どこが頭でどこが尻尾が分からないような巨大なシロモノなのです。周知の通り、2011年の3・11福島第一原発事故以来は、ひと時も目が離せない状況が続いています。

当時の会員は皆トシを取り、親の介護に孫の守り、自身の健康、転勤転出、とキビシイ状況ですが、とにもかくにも、よく続いてきたものだと思います。

昨年(2012)の25年の節目のつどいでは、今中哲二さんの記念講演と映画「チェルノブイリ・ハート」の上映で、多くのみなさんのご参加により賑わったのは記憶に新しいところです。あれからの1年間、「女たちの会のニュース」80号～83号(5月、7月、9月、1月)の発行、10月には橘 柳子さん(福島被災者)の講演会などをしてきました。このブログもネットデビューして丸1年になったところです。

さて、3月30日の「26年のつどい」について報告をしておきます。  
 山川元監督「東京原発」は、風刺がピリピリとたつぷり利いた作品でした。演技派俳優たちの個性的演技で繰り出される「珠玉のセリフ」の数々を(多少脚色しながら)あげてみると、  
 ・「政治家が先のことを考えなくなったのは、使用済み核燃料の処理を先送りとしたその頃からだ」  
 ・「官僚なんて責任を取る奴はだれもない」  
 ・「傍観してるのは賛成してるのと同じこと」  
 ・「絶対などということはありえないよ」  
 ・「(核ジャック騒動で原発の危険を思い知ったはず、に対し)甘いな。この国の人々は、過去のことはすぐに忘れてしまう」  
 etc.

「この映画が3・11の前(2002年)に製作されたということが驚きです」(アンケート記述)とは多くの方が抱かれる思いでしょう。それにしても、福島原発事故の起こる前と、起きてしまった今では、観るほうも感じ方が全く異なってきます。「笑える所もあったが、今は笑えない所も多々あり、笑ってられないな、と強く思いました」と書いてくれた人がいたが、まさにそのとおり。ブラックユーモアがブラックでなくなったんだもの。ユーモアでもありえない。

もっと大勢の人、若い人、あまり関心のない人にこそ、観てもらう機会があればいいという声がしきりでした。・・・これまでこの映画の劇場公開が限定されてきたのは、その逆の理由からなんですね。

カレンダー

< 2013年04月 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発  
 美浜3号も廃炉に！ 11・13  
 琵琶湖集会(11/15)  
 汐見文隆先生、ありがとうございます(11/08)  
 原発がこわい女たちの会  
 ニュース99号発行(10/12)  
 高速増殖炉もんじゅ廃炉へ  
 (09/27)  
 老朽原発・美浜3号機は廃炉  
 に！パブコメを出そう(08/28)  
 ピースボートで韓国古里(コ  
 リ)原発を見学してきました  
 (08/21)  
 熊本地震の経験から原発の  
 耐震性見直しを要求し、25  
 団体で共同声明を出しまし  
 た(07/22)  
 老朽原発・関西広域連合へ  
 要望書と和歌山県との話し  
 合い(07/17)  
 原発のない社会を投票で示  
 そう！(07/05)



#### ■映画の後の交流会では

日高町で原発計画阻止の闘いに長年取り組み、勝利した地元漁民の濱一巴さんのお話から始まりました。原発推進派・反対派両者が対峙していても、遭難事故が起きたときは一致団結して捜索に当たったというエピソードを明かされ、そんな漁師の気持ちも分からぬ権力によって地区や町を二分して激しく戦わさせられた、という悔しさが滲み出ていました。「伝説の人」濱さんは、最近になってようやく当時のことを語れるようになったのです。

続いて、あわたまの高橋さんからは、福島の惨状があるにもかかわらず上関・祝島で再燃している原発計画の状況について、また内海さんからは、大阪におけるガレキ受け入れ焼却の現状と取り組み等について一広域処理の必要性を大阪市に問うたらガレキ量が「黒塗りで情報公開されたという椿事！も一報告がありました。

これまで毎月教会から派遣されて、福島の子どもの診察、健康相談に当たってこられた山崎医師による、国は子どもたちの病気を隠そう隠そうとしているというお話も、薄気味わるいものでした。聞いていて「福島の医療」は封建時代の鎖国状態だと思いました。

ながらく大学で教鞭をとる傍ら反原発の市民運動に携わってこられた佐野先生からは、「女の人たち頑張って」とエールを送っていただきました。米寿も越えられた先生からみれば、わたしたちはまだまだ若い、若い。

そのほかにも何人かの方から、**原発**といかに向き合うか、自らの関わり方について、周りへの広げ方について、発言がありました。みんな議論をしてもっと考える余地のある課題だと思いました。

(sora)

原発がこわい女たちの会  
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ

RSS

ID:

PASS:

サイト管理者 ▼

ログイン

SSLモードでログイン

BLOGariは2017年1月末  
サービス終了します

2013-04-02 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#) |

RSS 2.0